



記録のチカラ

SASEBO
ARCHIVES

特集

させぼ文化マンス Re:楽園祭

[表紙画像]
図案化された佐世保市にまつわる様々なデータ
出典:佐世保志(大正4年)／佐世保市立図書館郷土資料室蔵

SASEBO CULTURE MAGAZINE

文化のチカラ

VOL
17
2022

今回特集で取り上げた
「佐世保のキロク」に触れられる情報をご紹介します！

TOPIX
トピックス



第10回 させぼ文化マンス Re:楽園祭 2021

昨年11月にアルカス SASEBOを舞台に行われた佐世保市の文化祭「Re:楽園祭」。本紙にも登場した佐世保ベースが司会を務めてくれた公開生配信を含む動画を限定公開します！

アーカイブ動画
YouTube再生リスト「Re:楽園祭アーカイブ」
※YouTubeチャンネル「佐世保市企画部チャンネル」内




佐世保市立図書館 | 郷土資料室 |

市立図書館2階の一番奥にあり、佐世保に関する資料を数多く所蔵しています。中央の展示ケースでは定期的にテーマを設定し、様々な切り口で佐世保のキロクを紹介。表紙を飾ったレトロな資料を探してみるのも楽しいかも。また、図書館では、これまで実施してきたオンラインビブリオバトルのアーカイブ上映を予定しています。

| 郷土資料室 | 受付時間 平日10:00～18:00

ビブリオバトル上映会
日時 2022.2.23(水・祝)
【午前の部】11:00～11:45 【午後の部】14:30～15:30
場所 佐世保市立図書館 3F視聴覚室
(定員30席程度・申込不要)
お問合せ 0956-22-5618(図書館)
※新型コロナウイルス感染拡大状況によって中止となる場合があります。

「ビブリオバトル2021 in SASEBO」の
動画はこちらから→ 

こちらも
チェック！
CHECK

毎月、市内文化施設のイベントカレンダーを佐世保市ホームページ、Facebookページ「文化のチカラ」に掲載しています。

SASEBO文化情報紙
文化のチカラ

第17号(令和4年1月発行)
◎編集・発行
佐世保市企画部文化振興課

〒857-8585 佐世保市八幡町1番10号
TEL 0956-24-1111 / FAX 0956-25-9691
E-mail bunkak@city.sasebo.lg.jp

はじめての

佐世保ベース



ご…たしかに、映像編集の技術は使ってるんですけど、同時に編集で「ウソ」をまぜたくないって。僕らが大事にし

ご…たしかに、映像編集の技術は使ってるんですけど、同時に編集で「ウソ」をまぜたくないって。僕らが大事にし

社…アーケードと駅を歩いた動画も、多くの市外の方が思い入れをもってたくさん見てくれることがわかったり。こういう佐世保の日常も「文化財」なんやな…って思ったね。佐世保でローカルを取り上げた映像というテレビ佐世保という偉大な先輩がいるけど、自分たちなりの方法も見えてきた感じがします。

ご…たしかに、リニールで閉園した交通公園の動画（※頁左にQRコードあり）は反響が大きかったよね。当たり前にあったかつての風景を誰でもどこでも見れる動画という形で残すことの意味を改めて感じたかも。この2年は、悲しいけどコロナでお店が閉じたりすることも多かったし。

ご…たしかに、映像編集の技術は使ってるんですけど、同時に編集で「ウソ」をまぜたくないって。僕らが大事にし

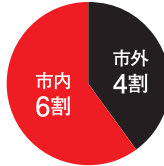
社…このプロジェクトを「作業にしたいくないんですよ。僕らがリアルに面白いつて思ってたさあれば、いっそ編集なしとか、僕らすら登場しない動画があったりしてもいいよね。って話とか、最近してますね。ご…社長自らが切り込み隊長で、さわどいことも忸度なく言うもんね（笑。自分にはそんなところはぜんぜんなくて。そういう意味ではこのプロジェクトして、なんでコイツと友達だったんだっけ？って思っくらい違いも感じる（笑）

数字で見る

佐世保ベース

※2022.1 時点

- 視聴回数 482,456回
- 動画本数 260本以上 (8本/月 ベース)
- チャンネル登録者数 3,980人
- 視聴者の属性



北村社長

佐世保ベース

〈佐世保ベース〉
東京から移住してきた「ごっちゃん（写真右）」が、学生時代からの友人で、佐世保出身の「北村社長（写真左）」と佐世保を舞台にロケとトークを中心とした動画でその魅力を発信する「移住体験バラエティー」。2019年にスタートし、「食レポのリアクションは、ローカルでは唯一無二」と評価されている。



ごっちゃん

2021年末、Google Japanより日本を代表する101組のクリエイターとして「佐世保ベース」が選出され話題になりました。佐世保を動画で記録し、YouTubeで発信を続ける2人にその活動についてお話を聞きました。

「日本を代表する101組のクリエイター」選出にあたりどんなところが評価されたのでしょうか？

北村社長（以下「社」）

「社会的・文化的・経済的に有意義な影響を与えたかどうかが今回のセレクトの基準だったらしいです。それに加えて、僕らとしてはとにかくコンスタントに動画をアップしていったことを認めてもらえたんじゃないかな、と感じています。まだ信じられない感じもありますけど。」

ごっちゃん（以下「ご」）

最初にお知らせのメールが届いたとき、迷惑メールって思ったもんね（笑）。ひと月に10本近くの動画を撮って、編集して、アップしてを2年以上続けてきて…正直報われたって思いました。

社…自分は何かが起こるような手応えは感じてたよね。ご…まじ？

社…まじ。当初から「佐世保ベース」ではこの街の「新発見」と「再発見」をテーマにしていたんですが、最近「街のアーカイブを残すこと」「街の共有財産をつくること」が僕らの活動の大きな意味なんかな、って思うことが増えて。

社…ただ、住んでいるところが楽しい街であってほしいっていう気持ちとか、面白がれるポイントは共有してるけん、いいよ！

ご…僕福岡出身なんですけど、2人で全国とローカルを繋ぐ、佐世保の華丸大吉になりたいなって思ってます！



山本千尋（やまもとちひろ）

1986年生まれ佐世保在住ライター。おもに地元の文化や歴史、老舗や人物などについての取材撮影執筆、紙媒体のお手伝いなど。演劇するのも観るのも好き。猫とトムヤンクンも好きです。



前略、地上136mの塔の上より～針尾無線塔とともに暮らす男たち



廃バスの扉をあけると、そこは公民館だった



わたしにはファッションistaのお姑さんがいる



地元のミニ市町村章を作ると愛着が湧く



佐世保の遊郭の本を自費出版した84歳の男性に話を聞いた



2022年6月、山本千尋さん初の著書「佐世保の自由研究」が発売決定。お問い合わせはこちらから。
<https://twitter.com/chiori1660>



さらっと登場したエアライフルの話題に驚きつつ、演劇は今も現役。
(なんと、第10回させほ文化マンス「Re:楽園祭」にも王子役としてご出演)

「デイリーポータルZさんには、玉屋の屋上や、左右駅のたこ焼きなど佐世保で気になっていた場所を好き勝手に取材して書いたブログをそのまま投稿してみたんですが、たまたま入選してしまって。もともと大好きなサイトだったので嬉しい限りです。」



佐世保の当たり前の風景を全国版のWEBメディアを通して逆輸入的に見ると、なんと不思議な感覚に襲われる。お祭りのとおりこのページはそのオマージュである。

取材先に共通点などはありますか。

「(力強く) ありますね! 気になるモノやコトから取材先を決めることもあるんですが、結果、そこにまつわる「人」にホレしてしまう、というのが私の特徴かもしれません。出会えた人からは、私の方が元気をもらってます。割と年配の方に惹かれることが多いかも。」



取材は、散歩しながら続く。通りかかった白南風町のバス停には子どもたちの絵が。「これもキロクですよね」

人気記事「わたしにはファッションistaのお姑さんがいる」など、佐世保のモノゴト以外にご家族もしばしばブログに登場。公私の境目を行き来するスタイルにクラクラ・勝手にヒヤヒヤしてしまう。

「家族もホレてるという点では一緒です。越えてはいけな一線はあると思いつつ、ここまでは許されるだろうという謎の確信があって、あまり相談もせずジャーンと出しちゃいますね。いまのところクレームは出ていません(笑)。」

最後に出版準備中の本について聞かせてください。

「ずばりタイトルは「佐世保の自由研究」。これまでの記事をまとめて今年の6月に出版予定です。いろいろ思ったより大変なので買ってください。」
ストレートな表現について私も予約しました。是非みなさんもチェックしてください。

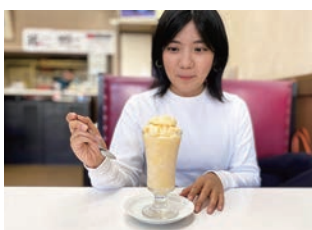


2022年1月31日

佐世保を書いたブログを自費出版する36歳の女性に話を聞いた



「記録×チカラ」をテーマに取材を進める私たちに、ユーモアと個性に溢れた筆致で、内外に佐世保ファンを増やしているブロガーの女性が自費出版の本を制作中との話が飛び込んできた。これはご本人に話を聞かねばならんだらう、ということで、年の瀬にも関わらず取材を申し込んだ。



取材は老舗の甘味処でミルクセーキを食べながら和やかな雰囲気のもと行われた。「夏限定メニュー」と書いてあるのに、気軽に提供してくれたお店の方には感謝しかない。

様々な媒体で、佐世保の日常や人物、歴史などをブログ形式で書きつづけておられますが、きっかけは?

「子どもの生後100日のお食い初めについて、ブログを書いたのがきっかけです。記念日の記録を忘れないようにあくまで自分のために残したい、と思ったとき、ふと書いてみたんです。こういうものは写真で残す方も多いと思うんですが、自分の感じた細かいことも含めて文章で残すことにしっくりきて、そこからですね。ブログは文字数の制限がないのがよいです。」



たしかにブログは、山本さん自身の感情の機微や小さくも印象的なエピソードに溢れており(時にむちゃ長い)、それそのものが魅力となっている。

その後、デイリーポータルZなど、全国的にも知名度のあるメディアにも連載を持つなど活躍されていますが、どんなキャリアを歩まれてきたのですか?

「佐世保生まれ育ちなのですが、進学と就職で一度佐世保を出ています。興味が赴くままに、学生時代は演劇やエアライフルに打ち込んで、福岡の雑貨店に就職したんですけど、地に足がついた生活をしなきゃ…とふと我に返って、佐世保に戻りました。ライフさせほさんに記者としてお世話になり文章を書き始めました。」



1978年7月に設立された西九州共聴株式会社(現:九州テレ・コミュニケーションズ株式会社)の事業としてテレビ放送を開始。「スポットインサセボ」など地域に密着した独自番組とBS・CS放送番組を放映している。

記録のチカラ キロワ × このまちの メディア

ここまで取り上げた若き「キロク者」に共通していたのは、先人たちへのリスペクトでした。奇しくもほぼ同時期に産声を上げ、半世紀に渡りこの街に暮らす人々の生活を取り上げてきた「ライフさせぼ」と「テレビ佐世保」。身近すぎて逆に知らない!?その佐世保の地勢・経済・文化が育んだヒストリーについて伺いました。

記録のチカラ

Life
SASEBO

1977年12月創刊。毎週金曜日、65,000部発行のタウン情報紙。隔月発行の情報誌99VIEWと併せて、有限会社ライフ企画社が発行している。



歴史-1 | 創業

創業者の太田亨が、当時、山がちで地形的にテレビ電波の受信が難しく、視聴できるチャンネルが少なかった(※当時は、NHK・NHK教育・NBC・KTNの4つのみ)佐世保で、ケーブルを使った配信を行い、市民のみなさんに映像視聴の選択肢を増やしたいという思いで1978年に立ち上げました。当時の社名にある「共聴」というキーワードにもその理念が反映されていると思います。自ら隠居岳に登り電波受信地を探したり、当時最先端の機器を独自に市外企業と開発したり、様々なチャレンジの記録が当社にも残っていて、これは私たちの財産ですね。



会社設立前の1975年、隠居岳で電波が受信できる地点を探している創業者の貴重なショット。

歴史-2 | コダワリ

創業初期から、外で作られた情報・番組を佐世保に届けるだけでなく、地域に寄り添った情報を制作し番組として発信していくことに取り組んできました。現在、スポットインサセボは、365日佐世保の地域情報を発信しています。これはなかなか大変なことで(笑)、制作のため約25名のスタッフが放送部に所属していますが、全国的に見てもかなりユニークなのではないかと思います。現在福岡でもテレビ・電話・インターネットの3本柱で事業を展開していますが、このコミュニティチャンネルの仕組みも踏襲していて、それが地域に根付いている大きな理由のひとつかなと感じています。

あくまで商業活動がベースにあるというのが「貫いた会社としてのこだわりです。まずは自立し、ご飯を食べていくためにやるということです。各家庭にポスティングを行う仕組みもその中で生まれたもの。また「営業」と紙面を作る「編集」でチームをしっかりと分けていることも特徴のひとつ。編集チームが営業と切り離されていることで、佐世保をテーマにしたローカルな視点をブレずに守っているのだと思います。これも一度外の世界を見た上で、同時に地元の面白さを再発見していった創業者の紙面づくりを引き継いでいる部分かも知れません。

歴史-2 | コダワリ

1977年、東京でテレビのシナリオライターをしていた小川照郷が佐世保に帰郷し、30歳のときに発刊したのが「ライフさせぼ」です。フリーペーパーというものがまだ一般的でない時代、広告で収入を賄うというテレビ的な手法を用いることで、市内の様々な生活情報を無料で市民のみなさんに届けたい、という思いがありました。当初は、その仕組みが新しすぎて、あとから請求される相手の詐欺ではないかと勘違いされたというエピソードも(笑)。また、合併前の佐世保は山に囲まれたすり鉢状の街であつたことから域外からライバルが参入しにくいだろう、という若きビジネスマンとしての目論見もあつたと聞かれています。



記念すべき第1号。紙面には、現在も続く佐世保朝市(万津町)の賑わいが取り上げられている。

歴史-3 | アーカイブと未来

地域の小さな行事から、お遊戯会、果ては一般の方のご自宅まで(笑)、番組で取り上げるのは私たちにしかできないことだと考えています。映像も1991年以降に制作したものはほとんど残っていて、時折アンコール放送を行っています。そんな時ご本人からではなく、ご知人の方から「あの方元気しとすかね?」と連絡が入ったりするんですね。また、お子さんが小さな頃からテレビ佐世保で取り上げられるたびに録画して、成人のときにプレゼントされた、というエピソードなど、私たちが元気をもらうことも多いです。このような地域や人々を繋ぐ、当たり前で大切な放送局としてチャレンジを続けたいと思います。

Interview

テレビ佐世保・放送部

多胡聡美さん



Check!

「テレビ佐世保」の1991年以降の制作番組は、アンコール放送をリクエストすることができます。

https://tvs12.jp/community_ch/



歴史-3 |

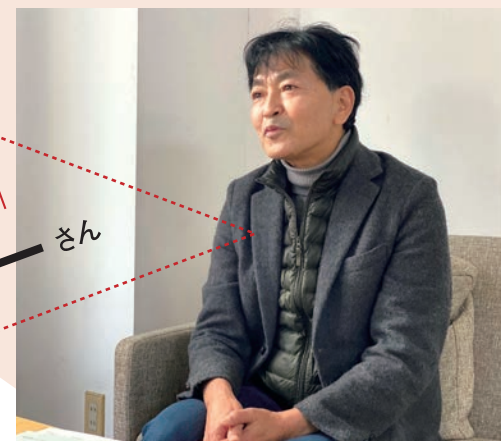
アーカイブと未来

「商売が基本」と言いましたが、2,000号を超えるバックナンバーを振り返れば、改めて広告とともに歩んできた媒体なんだなと感じます。「文化は経済に従う」と僕は考えているのですが、広告欄を通覧すると、商店街、ファッション、美容やアウトドアなど、その時代時代の勢いのあつた業種の方々と二緒になつて佐世保の文化を形づくってきた側面はあるな、と。まちづくりや文化を担うという目的で発行しているわけではないのですが、行政等では抱えない佐世保のリアルな生活情報についての史料の価値も生まれていると思います。これからもネットで検索しても出てこない、紙媒体らしい事業・表現を追求していきたいですね。

Interview

ライフさせぼ編集長

末永修一さん



Check!

「ライフさせぼ」のバックナンバーは、本紙裏面で取り上げた佐世保市立図書館郷土資料室でも閲覧できます。

